

nov. 12 2017

## 「軽四スーパースポーツカー開発プロジェクト (K4SS)」の休止のお知らせとお詫び

当ホームページの jun. 20 2016 のニュースリリース「[\[SUPER SPORT K4 PROJECT\]の概要についてお知らせします](#)」で通知した「軽四スーパースポーツカー (K4SS)」の開発プロジェクトですが、この度、どうしても、これ以上は進められない状況に陥り、大変に残念ながら、一旦、休止の止む無くに至りました。

ひとえに私の不徳の致すところであり、関係各位には大変に申し訳なく思っていますが、これでも、最大限に計画を完遂するための努力をしてきたつもりながら、詰るところ、私のクルマ造りへの情熱と私の人としてのプライドを天秤にかけたら、プライドの方に大きく傾き、どんなに気持ちを切り替えようと努力しても、クルマ造りの方が後回しにされてしまう状況が続いた結果、「K4SS」は進まないは、私のプライドも、ずたずたに引き裂かれる最悪の事態に陥っていました。今年の5月ごろに解決の糸口が見えたので、ギリギリのタイミングでしたが、これからK4SSに集中できると安堵したのも束の間、事態は逆に悪化してしまい、その後、ますますK4SSにさける時間が少なくなり、ここに至って、一旦、休止せざるを得ない状況になってしまいました。

原因は、ここ5年間に亘って続いている元嫁との離婚にまつわる金銭問題ですが、これにより、もともと予定していた、東南アジアをネットワークするスポーツカー/レーシングカーの開発/生産システムの構築という壮大な計画であった「遺作プロジェクト」が破たんしてしまいました。その後、最後の力を振り絞り、最小限のスケールながら、日本のスポーツカー/レーシングカーの開発技術の維持/発展に寄与することを願い「K4SS」の計画を進めてきましたが、この間、元嫁との想像を絶する争いが、収まるどころか、益々、エスカレートを続け、遂に、「K4SS」を断念せざるを得ないところまで追いつめられてしまったという訳です。

このあたり、何が起こっていたかは、当ホームページの「[信じる者は掬われる](#)」というタイトルのコラムで詳しく述べていますし、それにまつわる近況については「[汚れ行く晩節](#)」で書いていますので、興味のある方は参照してください。ただし、かなり長文なので時間のある時にどうぞ。また、この紛争に興味を持った出版社から、「クラッシュ (第三書館)」「クラッシュ II (第三書館)」という2冊のドキュメンタリーが出版されています。

ご期待頂いた各位や関係者の皆様には大変に申し訳なく思っていますが、私としては、この紛争によって生じている不当な名誉棄損に関して看過することは私のプライドが許しませんので、私の生涯に不名誉な烙印を押されないように、今しばらくは名誉回復に全力を注ぎたいと思っています。

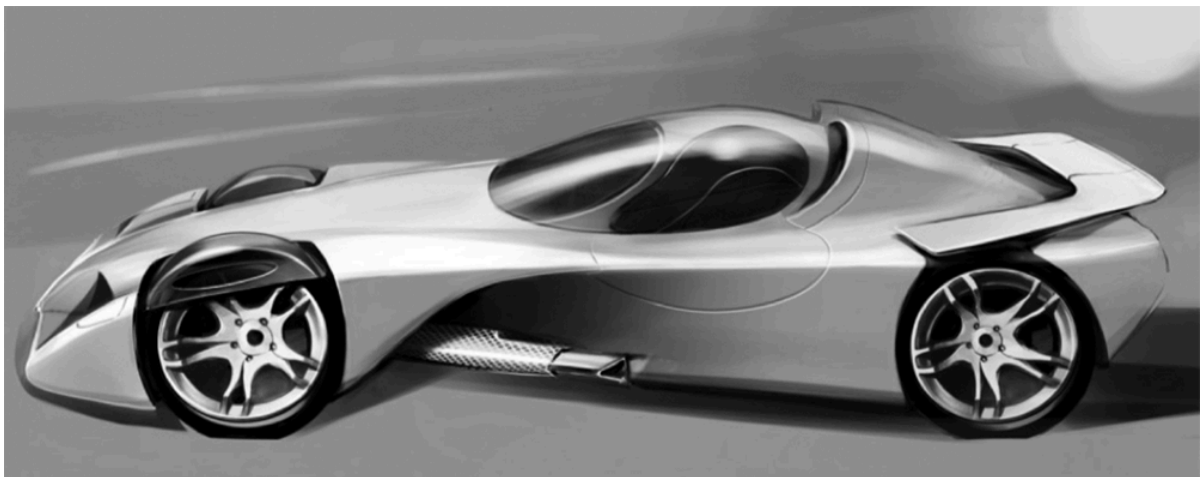
紛争の内容は「[信じる者は掬われる](#)」を参照していただくとして、ここでは、「K4SS」の経緯について説明しておきたいと思います。

この紛争により、本来の目的であったスポーツカーの開発システムを構築する「遺作プロジェクト」がとん挫してしまいましたから、その試作車である「とわ」を発表する予定だった2015年7月15日の私の引退パーティ「童夢の終わり始まり」には、当然、その姿は有りませんでした。

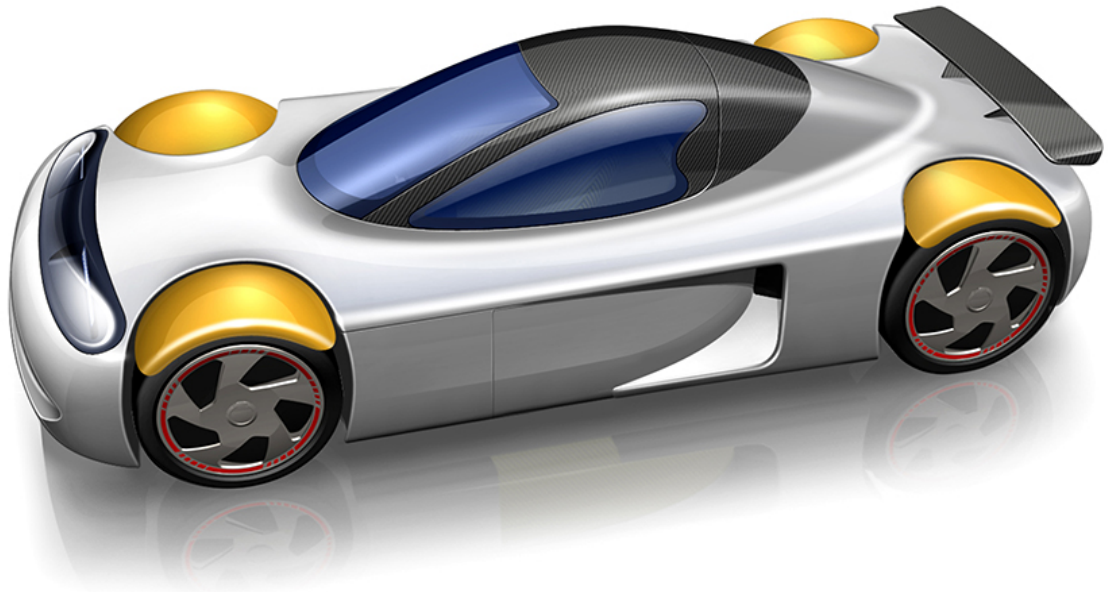
代わりに花を添える意味で、「カラス」と「MACRANSA」を展示しようと思い立ち、以前から知り合いだった鈴鹿の藤井君(フヂイエンジニアリング)にレプリカの製作を依頼しました。

その打ち合わせを重ねているうちに、藤井君のクルマ作りへの情熱も伝わってきましたし、情熱だけは溢れつつも、金も経験も技術も無くもがき苦しんでいた若き日の自分と現在の藤井君が時空を超えて意気投合したのでしょうか、藤井君にチャンスを与えるという形で、日本のスポーツカー/レーシングカー開発技術の新芽を育て、将来に希望を繋ぐという道もあると思うようになり、それやこれやで、藤井君に、基本コンセプトを纏めあげるまでの作業を手伝ってもらう形で発進したのが「K4SS」のプロジェクトです。

ただし、最終的にはナンバーを取得して公道を走るスポーツカーとして完成させるつもりでしたから、トップクラスのクオリティが求められます。その為に、設計の段階からは童夢にトスするという計画で始まりましたが、いろいろ理由も原因も有るものの、最大の原因は、前述したように、私が「K4SS」の開発にのめり込めないまま中途半端に1年が過ぎてしまい、これからもまだまだ、この泥沼から抜け出せないと思われるので、まことに勝手ながら、一旦、休止せざるを得ないと判断した次第です。



「遺作プロジェクト」の第一号試作車として製作予定だった「とわ」。「童夢-零」で始まり「童夢-とわ(永遠)」で終わる予定でした。



これからのEVレーシングカーの方向性を示唆しながら、公道も走れるスポーツカーとして開発を進めていました。

一人の女の我欲が、東南アジアのスポーツカー開発/生産システム構築の計画を叩き潰し、本格的EVスポーツカーの開発計画をとん挫させるのですから、げに恐ろしきは人間の欲望ですが、それにしても、失った希望や未来は計り知れません。

このスポーツカーで街を走るのが老後の楽しみでしたから、この紛争が納得のいく形で解決し、まだ私の余命が残っていそうなら、ぜひ、再開したいと思っていますので、一応、休止とさせていただきます。

林みのる